

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	2025年 3月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		・机や椅子などを並び替えたり、空間に区切りをつけ、活動に合わせています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・職員配置は基準より多く配置しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		・活動場所は、3つの机でコーナーを決めて行き安全に活動出来るように工夫しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・毎日掃除、消毒・換気・ごみ投げを行っています。活動に合わせたスペース作りを行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		・活動をわけて、机や椅子の配置をしていますが、子どもがおとなに許可を得たり、子どもたちと話し合いをしていながら、活動場所を変更できるように臨機応変に対応しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		・毎週1回必ず全員でクラス会議やケースカンファレンスを行っています。また、PDCAサイクルを回して、業務を改善できるように取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・保護者の意見を真摯に受け止め、職員で共有し、実際の支援に繋げて活動に落とし込んでいます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・週1回グループSVを行っています。職員の意見や改善点を挙げて、日常の業務に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	・第三者評価は受けていません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・年代別研修、職種別研修、外部研修、部門別研修、外部研修など、多種多様な研修を受けています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		・HPIに公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		・保護者との面談は頻回に行うようにしています。 ・クラス会議内で、面談内容を職員全員で把握しながら、計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		・会議で保護者の意見を共有しています。また、それぞれがもっているアセスメントを話し合うことで適切な支援の検討を行っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・毎週のクラス会議で、子どもの様子や変化や発達について話し合い、支援の方向性が一貫するように努めています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		・法人指定のアセスメントシートを使い、日々の支援の在り方を会議や、活動前のセットアップ、活動後のF Bを行っています。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・本人支援を中心とした支援内容を検討し、家族支援、移動支援、地域支援、地域連携に目を向けた内容を精査しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・子どもの発達や特性を活かして、充実した活動が出来るように、クラス会議で話しあっています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・固定化しないように、子どもたちの要望や意見も大切にし、やりたい活動などを聞いて療育活動に取り入れることもあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・日々の療育や家庭の様子を元に、個別対応や小集団、全体活動等に振り分けて活動を行い適切な支援に繋がっています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・活動の前に簡単な打ち合わせ、後に振り返りを行っています。意見を出しやすい環境作りを意識しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・療育内で感じたことや子どもについての気付きを話し合う時間をとっています。また、クラス会議などでも話し合っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日、療育の記録を書いています。支援の計画、実行、振り返りの流れを維持しながら、子どもにあった支援に繋がっています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年毎に、計画の見直しを行っています。また、見直しの際、日々の支援のPDCAを元に計画を作成しています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・発達領域を理解し、職員同士共有した上でこどもの現状にあった支援を行っています。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・こどものお話を傾聴することを大切にしています。大人が聞いてくれるという安心した環境作りをしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・職員で子どもの現状や課題、目標、適切な支援内容や支援の方向性を定めた後、代表者が会議等に参加しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・支援の輪が広がるように、各種連携機関との情報共有を図っています。家族支援会議などは、保健センターや、児相、病院、学校等と連携するときもあります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校送迎を行う際、名前の確認はもちろん、学校と子どもの様子の引き継ぎも行っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。			・今年度は対象の児童はいませんでした。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			・今年度は対象の児童はいませんでした。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・法人内のセンターが主催するセンター研修に参加をして、学ぶ機会を作っています
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	・今年度は交流はおこなっていません。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・法人として、子ども部会等に積極的に参加しています。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・面談、メール、電話または送迎時等で保護者と事業所や家庭での様子を共有しています。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・毎月1回グループカウンセリングを行っています。その中でペアレントトレーニングや学習会を開催しています。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		お母さん方1人1人に説明をしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・子どもの願いと保護者の願いを個々に聞く時間を作り、個別支援計画の中に意向を載せています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・児童発達支援管理責任者が説明を行い、保護者に同意を得ています。また、かならず控えをお渡ししています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者と話す面談だけでなく、電話やメール等を通して子育てに関する悩みや心配事を聞き取っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・親子発達支援を年2回行い、保護者同士が知り合いになり、話ができる場作りをしています。子育ての悩みを共有したり、保護者同士のつながりを持ち、交流できる機会をもっています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・メールや電話等で、受け付けしています。法人内で苦情処理のマニュアルをに沿って、適切かつ迅速に対応するよう努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月おたよりを発行しています。また、HPやInstagram等でもブログなどで活動や行事の様子をお伝えしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・書類は鍵のかかる書庫に保管しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・日々の様子をメールや電話で小まめに伝えていきます。保護者が相談しやすい関係作りをしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・以前はバザー等を行っていましたが、今は行っていません。運動会は地域の小学校のグラウンドをおかりして行っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・マニュアルは事業所に掲示しています。また、年間をとおして研修やロールプレイを行っています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPを策定しています。避難訓練計画を作成して、毎月必ず訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・契約時、アセスメント時などに服薬、予防接種、てんかん発作等について必ず保護者と確認しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・給食提供前に必ず医師の診断書を提出して頂いています。医師の指示を元に給食やおやつを提供しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画に沿って、年間の研修やロールプレイ、朝の打ち合わせ等で練習を行っています。避難訓練も年間12回行うことで、安心安全に繋がっています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・法人内の安全委員会があり、ヒヤリハットの分析を行い、アドバイスを元に再発防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・週1回、アンガーマネジメントの練習を必ず行っています。また、年2回は権利擁護・虐待防止・委員会が主体となって、虐待防止研修会を行い、全職員が参加しています。	

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	・法人内に権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置して、会議を開いています。また、個別支援計画の歳、保護者に事前に説明を行っています。	
----	--	---	--	--